

文化ボランティア通信

- 第10号（平成16年3月） -

一言御挨拶 「さらなる発展を目指して」

文化庁長官 河合 隼雄



「文化ボランティア通信」も第10号になりました。たくさんの方々の支えで、ここまで発展してきたことを大変うれしく思います。文化ボランティアの運動は、全国に広まったと思います。

私も日本中のあちこちをお訪ねして、文化芸術懇談会や文化アドバイザーの催しで、各地の皆様ボランティア活動に接して、その意欲の高さや、さまざまな工夫がなされていることに感心しています。ともかく、年齢にしる、職業にしる、いろいろと異なる人がひとつになって行動するのですから、そこには何らかのよい工夫が必要です。それがうまくなされていると、活動も円滑に、楽しく行われると思います。

ボランティアの方々にお会いしたり、この「文化ボランティア通信」を読んでいて、さらなる発展のために、皆さんに是非お願いしたいと思うことを、ふたつ述べたいと思います。

その第一は、文化ボランティア活動に、もっともっと大学生を引っ張り込んで欲しい、ということです。大学生は時間も余裕があるし、活動力も高いです。大学生たちのボランティアグループもあるようですが、地域の人と大学生が共に文化活動をすることは、お互いに大変意義のあることと思います。

大学生で文化ボランティア活動をしている人は、この「文化ボランティア通信」に、体験を報告して下さい。

次は、ボランティアグループのお互いの交流です。本誌には「小樽職人の会」が各地の職人さんと連携して「全国職人学会」を形成されたことが報告されています。これは本当に素晴らしいと思いました。これほど大規模でなくとも、離れた土地のふたつのボランティアグループが交流して、成果を発表したり、意見を交換したりして親睦をはかることは、楽しく、意味深いことと思います。交流会のことも報告して下さいと有難いと思います。

文化ボランティア実践事例

本号では、生活文化に関わる文化ボランティア活動の実践事例を掲載します。

NPO法人フラワーコーディネーター協会ボランティアセンター(熊本県熊本市)

団体設立の経緯

平成元年頃より花を愛する仲間と共にフラワーアレンジメントや押し花・ガーデニング・アロマテラピー等の人材育成や地域セミナーを、県内の各地域で行っていましたが、平成10年12月にNPO法が施行されたのを機に、法人化することになりました。

高齢者・障害者をはじめ地域の人々に対して、花と緑と香りの文化の振興に関する事業等を行い、心の健康と福祉に寄与し、明るいまちづくりに貢献することを目的として平成11年9月に認証されました。これまでの活動から育った多くの人材が地域のボランティアリーダーとして、まちづくりや文化芸術の振興に一役かっているものと自負しております。



熊本県主催「花まつり」でのボランティア装花作業

そうした活動の広がりや高年齢者・障害者の生きがいづくりとなっているばかりか、花文化を通しての子どもたちとの世代間交流の場ともなっています。

活動内容について

1) 花倶楽部

園芸押し花講座・・・県内の障害者施設や高齢者施設で押し花の額づくりや小物づくりを楽しんでいます。

花壇づくり・・・施設内にある花壇の手入れです。入所されている方や職員・近所の方も一緒に季節の花を植え込



施設での園芸押し花講座

み, それらの花を押し花講座で使用しています。

クリスマスのリースづくり・・・毎年恒例になったイベントです。出来上がったものは毎年お世話になった方々へ贈られます。また, オーナメントを取り替えることによって正月飾りにも転用できることで好評です。

2) 花・みどり・香りまつり

年に1回の作品発表会です。花が大好きな人達による思い思いの作品が展示され, 交流会を心待ちにしている人も大勢います。

3) 研修会

会員の技術向上のための学習会です。最近ではその中でパソコン講座も始めました。会員同士の連絡や会報・チラシの作成などを目標にしていますが, 覚える速度と忘れる速度との競争です。しかし, 仲間と新しいことにチャレンジするのも楽しいことです。

また, 平成14年4月に行った韓国天安市との花文化交流事業以降, 国際交流事業にも積極的に参加するようにしています。



韓国天安市との花文化交流

4) シルバーカウンセリング

心のケア相談室・・・家族や友人にも話せない悩みや心配事について相談にのっています。必要であれば専門の医師や臨床心理士・弁護士などを紹介して, 深刻にならないようサポートしています。

5) みんなの広場

情報誌 Lami'e の発行・・・花・みどり・香りに関する知識や技術をお知らせします(年4回発行)。

今後の展望について

高齢社会の到来に伴い、人が生涯尊重されるためには、生きがいを持ち、いくつになっても地域に役立つ人材であるという自信が必要だと思えます。身近にある草花を愛し、仲間をつくり会話を楽しみ、地域の環境美化や施設でのボランティアに生かせる技術を身につけるサポートが私達の活動です。花文化の振興と共に、生涯学習の中から新しい人間関係を形成し、またその中でこれまでになかった自己の能力を発見してもらえたいことを期待しています。

課題は慢性的な資金不足です。会費や財団等からの助成金が主な収入源ですが、安定した活動を行うためには事業収入を確保する必要があります。しかし、事業中心になると本来の目的からそれてしまう危険性もあり、そのあたりのバランスを保つのが大変です。特に、文化の振興を図ることを目的にしているNPO法人には共通する悩みではないかと思われれます。

(お問い合わせ先) NPO法人フラワーコーディネーター協会ボランティアセンター
〒860 0845 熊本県熊本市上通り町3 - 19 - 402
・FAX 096 - 354 - 7251 メール pipi401@iris.ocn.ne.jp
HP <http://www12.ocn.ne.jp/pipi/>

熊本福祉囲碁の会(熊本県熊本市)

熊本福祉囲碁の会について

熊本福祉囲碁の会は「趣味の囲碁によるボランティア活動を通じて、社会福祉の増進に寄与すること」を目標に、日頃対局の機会に恵まれない高齢者や身体障害者の施設や家庭を訪問し、対局を行っています。会の設立は平成9年2月15日で、当時九電の関係者を中心に12名で発足しました。その後各方面から参加者が集まり、現在は女性7名を含む57名の会員が活動しています。棋士会員は46名で、その他に会の趣旨に賛同して、経済的、労力的援助を行う賛助会員が11名います。会員から会費として年6000円を徴収して会の運営に当てています。事務所兼研修用の対局場は会員の方から殆ど無償で提供を受けており、ここで会員相互の打ち合わせや、研修の対局も行っています。

具体的な活動内容

具体的な活動状況ですが、訪問施設は17箇所、ハンセン病の国立療養所菊池恵楓園、労働特別介護施設ケアプラザ宇土、身体障害者療養施設くぬぎ園、などのほか介護老人保健施設13箇所、病院1箇所と個人宅3箇所に、それぞれ担当する会員が月数回ずつ出かけています。昨年度の訪問実績は744回で、延べ人数は1327名に上りました。

それぞれの訪問先の方達が一堂に会して、互いに対局する、熊本福祉囲碁大会も一昨年から開催しています。付き添って来る施設の方や家族の方も含めて、100名近い方が集まり、にぎやかな大会になっています。



熊本福祉囲碁大会風景(平成15年9月27日)

また私達が主催して、菊池恵楓園を囲む親善囲碁大会を開催し、年2回4団体の80名ほどが参加して、リーグ戦を戦わせています。その中には日本棋院熊本支部に所属する女性サークルの方達もいて、会合を和やかにしています。

これらの活動を通じた多くの交流は、訪問を受ける方達のみならず、私達訪問をする側にとっても、かけがえのない楽しみであり、貴重な経験となっています。全く体の自由の利かない方から、「そのようなごまかしの手は打ってはいけません」とたしなめられたり、90歳を越す高齢者の方が1年間に2目以上腕を上げられたり、また病気の後遺症で指が使えない方が、スプーンで碁石を掬いながら、懸命に対局される姿を目の当たりにするときなど、物事に取り組む姿勢について教えられ、むしろこちらが福祉囲碁の活動から得るものの多いことを実感しています。



菊池恵楓園における訪問対局(平成13年10月18日)

さらに各地の施設に訪問することで、障害者や高齢者に対する施設での対応を経験でき、私達の近い将来の生活における対策と心構えについても、学ぶことが出来るのも得がたい体験だと思われます。

今後さらに人材や財政の確立を図って、この会をより充実させるとともに、全国にある類似の会の皆さんとも連携を図って、楽しみながら活動を広げていきたいと願っています。

(お問い合わせ先) 熊本福祉囲碁の会

〒860-0046 熊本県熊本市横手1-13-81

096-338-9664

くらしき将棋ボランティア(岡山県倉敷市)

趣旨と目的

将棋をより多くの人達に知ってもらい、将棋を通じて子どもたちとふれあい、老人クラブ等では生きがいを持つための楽しみ方について、お互いに共通の時間を持つようにしています。

将棋について

将棋というゲームはインドで発生してから約5,000年、世界中に広まり、それぞれの国で特徴を持って発達し、チェスや中国将棋など数多くの種類に分かれました。日本の将棋はシンプルでありながら難しさを兼ね備えた非常に優れたゲームで、最大の特徴は相手から取った駒を味方の戦力として再利用するという日本の将棋独特のルールです。このことが変化を膨大なものにし、ゲームそのものを難度の高いものにしていきます。日本で生まれた将棋を、古来の文化の1つとして、これからも発展



第2回全国小学生「倉敷王将戦」

させていきたいと考えています。

将棋ボランティアが生まれる必然性

平成2年に大山康晴15世名人が文化功労者に指定された時、「将棋を文化と認めてもらったことが一番嬉しい」と話されました。大山名人は将棋普及のために日本国内外はもちろん、全世界に足を伸ばし、40年以上にわたって努力を続けられたことは、何人にも真似のできることはありません。将棋が自分を育ててくれた、だから将棋にお返しをしなければならない。大山名人が生涯貫いた精神です。



第11期大山名人杯倉敷藤花戦

倉敷では倉敷市大山名人記念館を建設(平成5年10月オープン)し、将棋文化普及の一助となる事業を企画し、実践して

います。これらの事業を円滑に進めるためには、将棋に精通した人達が必要です。ボランティアを一般募集してきました。

活動内容

現在14名で構成しており、全員が大山名人の信奉者で、「心」と「情熱」を受け継いだ人達です。依頼先の増加が予想され、メンバーの増加も期待しています。

・倉敷市内小・中学生将棋大会	参加者500人以上	審判係14名
・全国小学生倉敷王将戦	参加者100人	進行係10名
・倉敷将棋の日	参加者150人	進行係5名
・大山名人杯倉敷藤花戦	観戦者700人	場内整理他12名
・岡山国民文化祭小中学生将棋大会	参加者150人	進行係8名

その他複数の将棋大会の進行係として活動し、将棋大会の他、養護施設や老人クラブへの出張、公民館や小中学校での将棋教室等、活動は多岐にわたっています。希望がありましたら御連絡下さい。

私達の考えること

日本の将棋が優れた頭脳ゲームであることは世界で認められ、脳の老化防止に役立つことも証明されています。ただし、将棋を楽しむという感覚が必要なのです。ルールを覚え、駒を動かすことは簡単なのですが、ゲームを楽しむまでに進歩するのはとても難しいことです。楽しみながら上達して下さい。



倉敷市内小中学生将棋大会

低年齢で将棋を始めると上達するのに比較的苦労しません。将棋に関心を持つ子どもがいたら教えてあげて下さい。私達の大きな目標は「痛みのわかる人になってもらいたい」ということです。将棋でいえば勝っておごらず、負かした相手の心を思いやれる人になるということです。



将棋教室

(お問い合わせ先) 倉敷市大山名人記念館

〒710 - 0046 岡山県倉敷市中央1 - 18 - 1

・FAX 086 - 434 - 0003

NPO 法人北摂子ども文化協会(大阪府池田市)

北摂子ども文化協会について

設立:

1998年 3月 任意団体として大阪府豊能郡豊能町を中心に活動を開始

1999年 8月 NPO 法人の認定を経て「豊能子ども文化協会」として活動

2000年11月 名称を「北摂子ども文化協会」に変更

基本理念:「子どもの権利条約」の普及と推進

目的:一人ひとりの自己実現・市民の市民による市民のための NPO 社会づくり・子どもが豊かに育つ地域文化環境の向上

主な事業:文化事業(講演会等), 共育事業(共に育ち合う活動), 舞台芸術鑑賞事業, 委託事業, 書籍発行

「とんど焼き」の紹介

北摂子ども文化協会前身の団体が活動を開始した20年前, 当地は新興の町でした。ふるさと行事も少なく, 生まれ育つ地域への愛着, 心のよりどころを育みたいと願い正月行事として「とんど焼き」に取り組みました。当初は開発途上の空き地も多く, ほのぼのとした活動でしたが, 現在は小学校の校庭をお借りして, 町の年中行事となってきました。

地域行事は人々の交流の場でもあります。目的を共有し, 作業を協働するという事は, まさに地域のおとなが地域の子どもの成長に責任を持つ実践となっています。

昨今, 子どもたちが犠牲になる残虐極まりない事件が多発しています。私達おとなは, 地域の子どもの安全を担保するにはどうしたらいいのでしょうか。こんにちは! と声を掛け合う日ごろのふれあいの大切さを実感しています。複雑化した社会環境の現代において, また, 核家族化がますます進む中, 子



育ては親だけではできないことも実感します。

とんど焼きは我が家だけではできない行事です。地域みんなで創り出す行事です。竹の切り出し、薪の調達、火の番、餅つき、ぜんざいのふるまい、伝承あそび等、多くのボランティアに支えられています。また、高校生や青年の協力もうれしいものです。彼らはかつて幼かった時、この場で遊んだ体験がなつかしく、今では提供側に立っています。



21年の活動の中で、子どもの成長と活動の成長がかみ合ってきていることは大きな喜びです。「とんど焼き」の協力者は、毎年様々ですが、「ボランティア活動」はあくまで本人の自発的な活動です。当協会は、個人の特性を活かし合いながら、できる時にできる人ができる形で参加する状況を提供していきたいと考えていますが、それは、「ありのままの自分」を肯定するメッセージにもなっているようです。

「継続は力なり」をモットーに、町の営みの成長に合わせて地域の人々、世代間のつながりを育んでいきたいと願っています。

○課題と展望

ボランティアは自発的な社会奉仕ですが、主催者はボランティアを「便利屋」として使ってはならないし、ボランティアも何に賛同・共感してその活動に参加するのか、自分の理念をしっかりと持つことが重要です。特に若い青年ボランティアには活動の主旨・目的を十分に伝え、双方の合意をきちんと確認していきたいと思います。



また、今後の展望としては、市民の自発から生まれた地域行事である「とんど焼き」、市民のネットワークの場として広がっていくためには、今後、地域有志の実行委員会として発展させたいと考えています。

(お問い合わせ先) NPO 法人北摂子ども文化協会

〒563 - 0058 大阪府池田市栄本町6 - 6

072 - 752 - 9910 FAX 075 - 752 - 8185

熱海花の会(静岡県熱海市)

趣旨,経緯,概要について

熱海花の会は,花を愛好する人々が相集まり組織されており,趣味を生かし,お互いに花を愛する美しい心のつながりをモットーに,会員相互の親睦を図り,花と緑のある美しい住みよいまちづくりを目的として,昭和40年4月に設立され,現在会員131名により運営しております。

主な事業としては,「花いっぱい運動」,「家庭園芸の研修会」,「バス視察研修会」,「種苗,肥料等の共同購入の斡旋」等を実施しております。

熱海市では,「四季を通じて街に花と緑が溢れ,安らぎと潤いのある街」を目指し「花いっぱい運動」を展開しております。花の会は,これらに協力し公共施設などに設置されているプランターや,沿道公園等の花壇の植栽・維持管理等のボランティア活動を実施しております。

また,昨年開催された国民体育大会には,選手,関係者を草花で歓迎する為,夏季大会,秋季大会と私達は誇りをもってボランティア活動に臨みました。



熱海花の博覧会ゲート前歓迎花のじゅうたん植え込み作業

活動内容について

壇の植栽,維持管理等について

道路沿いに設置されている公共花壇(6箇所)とフラワーポット及び当市の玄関口である駅前のフラワーポット等に四季折々の草花を植栽・維持管理(雑草取り,花殻摘み)を毎月1回実施し,市民の方々や観光客から喜ばれ楽しんで頂いております。また,市内全域において,マスコットフラワーの配布を年2回実施しております。

花づくり講習会について

「花いっぱい運動」の啓発活動の一環として、年1回(財)静岡県グリーンバンクの花コミュニティ育成事業の助成を受け、講習会を花の会主催にて開催し、市民と会員で受講にあたり、花に対する意識の高揚と花づくりのベースアップを図っております。講師には花づくりの専門の先生や会員(花咲くしずおかアドバイザー)が努めます。今までに、観葉植物や草花の寄せ植え、ハイドロカルチャー、こけ玉づくり等の講習会を実施致しました。



市役所入口花ひろば植え込み作業

研修会について

花を訪ねてのバス視察研修会を年1回実施しております。また、他市町村のフェスティバル等イベントへの見学会も行い、講習会や実技講習会に会員が率先して出席しております。

イベント等への協力について

毎年5月に熱海市で開催されます「ガーデニングフェスティバル」に参画し、植栽・維持管理(雑草取り、花殻摘み、散水等)を担当、フラワーマーケット(出店)にも参加、また、市民ふれあいまつり(花や苗を販売し売上金を社会福祉協議会に寄付)にも積極的に参画しております。

夏期には特別養護老人ホームの納涼祭にて、ボランティア活動にも努めております。

体験教室について

平成12年から15年に開催されました「ガーデニングフェスティバル」会場にて、ミニ寄せ植え、ハイドロカルチャー、こけ玉づくりの体験教室を実施致しました。

平成13年に吉田町で開催されました「しずおか緑化祭」の会場にて、ハイドロカルチャー教室を実施致しました。

キャンペーンについて

熱海市では、今年4月に開催されます「浜名湖花博」のサテライト会場として「熱海花の博覧会」を3月18日から5月23日の67日間、熱海港観光施設用地で開催

致します。花の会として会員が自主的にキャンペーン活動を(梅まつり会場, 駅等での前売入場券の販売, チラシ配布)実施しております。また, これからは, 会場内での植栽・維持管理等のボランティア活動を積極的に実施していきます。

子どもに対するボランティア活動について

毎年, 地域の小学校を訪問し, 出張授業(小学生とのふれあい)と体験学習を実施しております。学校周辺の花壇で植栽の体験を通して, 草花の名前や花を愛する心, また, 土と共に楽しんで作業をしながら, ボランティア精神の醸成を図っております。

課題, 今後の展望について

熱海市は, 2010年を目標に, しあわせ, もてなし, おしゃれな熱海を目指すため, 「ガーデンシティ熱海」の具体化に取り組んでおります。

私達花の会も, 花と緑に溢れる街「ガーデンシティ熱海」の目的達成に協力し, ボランティア精神, 互助精神を大切に, 今後も活動を展開していきたいと思っております。



国道沿い花壇植え込み作業

(お問い合わせ先) 熱海花の会

〒413 - 0022 静岡県熱海市昭和町19 - 5

0557 - 81 - 7556

NPO 法人にいはるこども文化塾(群馬県新治村)

設立まで

群馬県新治村^{にいはる}では, 昔話を語る人々がつい4, 5年前まで現役で活躍していました。そんな昔話を, 村の温泉宿に嫁いだ持谷靖子さんが30年位前から聞き書きをしていましたが, せがまれるまま猿ヶ京温泉宿の囲炉裏端で語り出して20年。群馬

県で平成13年に開催された国民文化祭では、新治村で民話祭が行われる事になり、持谷靖子さんが講師となって10人の新しい語り手の養成のため、民話学習会が始まりました。村での民話祭は好評のうちに終わり、この民話学習会は、継続発展し31人となり、平成13年5月、NPO 法人にいはるこども文化塾が設立しました。

活動の発展

にいはるこども文化塾では、「民話語り てまり座」という部会を作り、民話の学習

会と語りによるボランティア活動を始めました。村立施設「民話と紙芝居の家」が平成13年12月に完成し、てまり座の会員が交代で当地の民話を語り、紙芝居等も自作自演しています。また、「民話と紙芝居の家」では、土曜学校として「民話と紙芝居学校こでまり」というサークルを作り、活動しています。地元の祭りや学校、幼稚園等で活動が月に3、4回あり、喜ばれています。



「民話語りてまり座」民話学習会

地元猿ヶ京小学校でも民話を学びたいという機運が高まり「民話クラブ」ができ、クラブ活動の支援を毎週行っています。また、5年生は、平成13年より、総合学習で民話の学習をすることになり、特別非常勤講師という形で支援をしています。



山形国民文化祭参加の猿ヶ京小学校民話クラブ

また、平成14年8月から、群馬県指定史跡猿ヶ京関所跡の関所宅邸跡で、月に1度「民話とコンサートの夕べ」を開催し、個人所有で保存修復の難しい、史跡を見守り、地元自力で保存すべく、村民の喚起を仰ごうと自主企画事業を始めました。

その後、群馬県の地域創造課の支援「文化の芽」事業に指定されました。

考え方

今後の活動としては、現在残されている民話の収集はもちろんのこと、今生まれている現代民話にも注目しまとめていこうと思っています。物に慣れてしまっている子どもたちに、いかに民話に興味を持ってもらえるかを考えると、昔婆様がやっていたようにお手玉や竹なんごなどの遊びを、アレンジして話の中に取り入れていくことも考えています。

したがって、考え方としては会員自身が大好きな民話をもっともっと学習して、語って、それが、何かの役に立てばいいねというまだ気楽な感じで事業を行っています。子どもたちに教えに行きながら、実は教えられたりしています。また、自主事業では、地元住民の参加を一番に考え、コンサートの出演者も、地元



「春駒まつり」民話発表会

の隠れた音楽家を探し出しては出演してもらっています。成果として、篠笛の練習者が増え、地元祭りに花を添えることになり、地元の祭の活性化にも役立てばと思っています。

活動内容

1. 営利事業

(1) 村立民話と紙芝居の家

影絵、のぞきからくり、紙芝居、民話の語り・・・毎日(木曜定休日)

(2) 地元宿泊施設等での出前民話の語りと紙芝居

2. 非営利事業

(1) 学校支援・・・毎週1回クラブ活動支援

(2) 土曜学校・・・毎週1回「村立民話と紙芝居の家」にて

(3) 猿ヶ京関所塾「民話とコンサート」・・・群馬県「文化の芽」事業 4月～11月(月1回) 群馬県指定史跡猿ヶ京関所跡にて

(4) 民話の語り発表会

例 てまり座とこでまり座の平成14年度の公演

第1回「春駒の歌」(平成15年3月)

第2回 クリスマスお楽しみ会（平成15年12月）
(5) 民話学習会

今後の課題

民話の語りそのものを魅力ある、文化として残るようになるためには、語りの研究や民話の学習のための時間や費用が必要なのですが、課題としてはその確保が難しいことです。また、読み聞かせや語りを通じて、地域の学校の国語教育の支援をしたいと思っていますので、その学習の時間や仕組みなどについて、学校や教育委員会と相談していききたいと思っています。

ボランティアといっても最低交通費や実費を支払いたいという願いやボランティアの意義について話し合いをし、今後改善していききたいと考えています。また、若い人が喜んで参加・交流できるような NPO 法人にしていきたいと考えています。

(お問い合わせ先) NPO 法人 にいはるこども文化塾

〒379 - 1403 群馬県利根郡新治村猿ヶ京1150 - 1
・FAX 0278 - 66 - 1874

いたこのぶかた

潮来延方親父の会(茨城県潮来市)

設立のねらい

日本の伝統的な子供の遊びをひとつの文化としてとらえ、その“遊び文化”を私ども「親父の会」は次の世代に是非とも伝承していきたく望んでいます。現在は忘れられている子供の遊び、あるいはその遊び道具を思い出しながら会員で復元し、子どもたちと遊びながら“遊び文化”の伝承について考えています。

このような趣旨に賛同してくれた有志が集まり平成4年4月に「親父の会」が発足しました。当時、^{のぶかた}延方小学校の校長先生のご指導を頂きながら、学校の空き教室を借用して活動を始めました。学校の週5日制が実施され、その休日を利用して子どもたちと共に遊び文化に少しずつ触れながら活動しています。子どもたちが「知識」ではなく遊びの中から色々な体験を通じて人間としての生きる「知恵・力」を自然と身につけてくれることを願っています。

会の組織

会長,副会長,会計 各1名

会員 15名 計18名

会員の職業

会社員,兼業農家,LPガス店,大工棟梁,基礎工事,電気工事,設備工事,畳店,その他

会の行事や活動する場合に種々の職業の人がおり,特技や個性を生かし活動の多彩さを支えています。



会員で製作した竪穴住居

活動内容

1.あそび教室・・・ベーゴマ,独楽回し,竹馬,剣玉,手玉板,弓矢,吹矢,おはじき,ザリガニ釣り,その他

2.もの作り教室

・工 作・・・凧づくり,竹とんぼ,土器づくり,巣箱,その他

・貝細工・・・貝殻のかえる

・藁細工・・・藁縄,草履,藁馬作り

3.体験教室

・宿泊体験・・・校庭内竪穴

住居 火おこし,鑊釜での御飯づくり,箸づくりなど

・野外活動・・・キャンプ,スキー教室/長野県白馬村

・農業体験・・・田植え,稲刈り(鎌で手刈,足踏み脱穀機,唐箕),収穫祭 餅つき(臼,杵)

・歳時記体験・・・栗ひろい,竹の子ほり,ヨモギ採り

行事への参加

定例の行事は毎月第2土曜日に延方小学校の空教室,学校周辺地域で実施しています。

参加人員は内容によって異なりますが毎月30~50人参加します。



収穫祭 餅つき

会では毎回昼食を会員各自が持ち寄った材料で作し、当日の参加人数に合わせて子どもの顔を見てメニューを決めています。

ザリガニ釣りの場合は60～80人参加するので昼食は豪華海老入り焼きソバで対応、当然ながら海老はザリガニです。

また、行事の開始時間は決めていますが終わりを決めてなく



ザリガニ釣り

何故かといえば、そもそも遊びは時間がきたから終わりというものではなく時間を忘れるところに遊びの持つ特性があると考えているからです。

今後の課題

野外活動の場合は事前募集につき保険加入の問題はないが、

月行事は不特定多数の子どもたちが対象なので保険の加入等が難しいです。また、一番人気のザリガニ釣りの出来る池が無くなりつつあり、釣り場の確保が難しいです。

会の願い

子どもの遊びを20世紀の記憶として化石化したものを歴史館、博物館等に残すのではなく、21世紀においても遊べるものを「子どもたちの手の中」に残したいと願っております。

(お問い合わせ先) 茨城県潮来市立^{のぶかた}延方小学校

〒311-2442 茨城県潮来市小泉2090番地

0299-66-2076 FAX 0299-66-4692

小樽職人の会(北海道小樽市)

「小樽職人の会」について

北海道産の小豆を武器に世界の穀物市場をリードした国際港湾都市・小樽はかつて樺太・北海道経済の「北の台所」「北のウォール街」と呼ばれる極東の要衝でありました。これは、北海道開拓使が欧米から導入した鉄道エンジニアをはじめ、馬そりやストーブ等を手掛けるお雇い外国人やアイヌの越冬技法、そして移民職人、旅職人衆の往来がこの「北の台所」を縁の下から支え、今日の発展する北海道の礎を築いてきた結果でした。

爾来風雪百年、21世紀を迎え職人の高齢化や世界の工場・中国への製造業の流出など職人家業を取り巻く環境の厳しさを危惧する呼びかけに、異業種職人同士の情報交換を通じて自己の技術の研鑽を行い、失われつつある伝統工芸や職人の「わざ」などを様々な行事を通じて子どもたちに継承し、後継者を育成することを目的として、平成4年に「小樽職人の会」が発足しました。

「小樽職人の会」には、薪ストーブやガス灯職人、大漁旗などの工芸染物職人、工芸菓子職人、硝子の浮玉などの硝子細工職人など様々な分野の多数の職人が参加しています。また、「小樽職人の会」は、単なる同業者による団体の域を超えて、教育、歴史や文化の継承、地域社会の活性化の担い手として活動を展開しています。

職人の応援団・永六輔さんと「世界職人学会」の誕生

「小樽職人の会」は平成11年に全国各地の職人のネットワーク構築と伝統工芸や職人の「わざ」の継承を目指して「全国職人学会」を設立しました。さらにラジオで結ばれた全国の町工場と永六輔さんとの絆が縁で、平成15年には「世界職人学会」を小樽市で創設する機会に恵まれました。

「世界職人学会」には、職人衆が1,021人、うち海外から53人がアメリカやドイツをはじめ手弁当で参加してくれました。また、たくさんのボランティアの方々が、各国・地域の伝統工芸や「わざ」をもつ職人が交流し、伝承していくことを目指すこのようなイベントを成功させるため、通訳、宿泊、案内、受付、クリーニング、設営、運搬、清掃、イベント、運営全般など北海道各地はもとより留学生をはじめとして参加を頂きました。中には、札幌周辺から連日駆けつけた学生や教員にまじり、中学生や主婦、高齢者の方々の活躍には随分と助けていただきました。

具体的な活動内容

(1) 職人の後継者の育成

多くの職種で職人の高齢化や現下の厳しい経済事情などで、後継者が育たない・育てられないと言う声に後押しされ、職人になりたい若者と弟子を取りたい親方のマッチングを行っています。ドイツのマイスター制度に習い、「全国の町工場が職人学校のキャンパス」というキャッチフレーズのもと、門弟が希望する職種の工房で、親方による一対一の指導が行われるという制度です。数年の職人修業の後、「全国職人学会」の審査を経て卒業を認定しております。現在、全国で20数名が修行中で、4名の卒業を認定しました。



(2) 出でよ！未来の職人たち

最初は町工場見学を熱望する一中学生の受け入れからでした。やがて職人問答や体験工房へとエスカレートし、学校単位の相談となって、「小樽職人の会」のメンバーを中心に、仕事の合間にボランティアとして対応することを条件として20業種の職人とサポーターが対応しております。これは小中学生の伝統工芸や職人の「わざ」に対する意識醸成を目的としています。平成11年度は年間2,000名程度の受講者でしたが、平成15年度では6,000名を超える数に至り、仕事の合間では対応できなくなっている程の盛況ぶりです。

また平成13年度より小中学生が自分たちで商品を企画して資金調達・製造・販売を模擬的に手がけるキッズベンチャー塾を開催し、子どもたちの起業家精神の醸成にも取り組んでいます。

今後の予定

今後の予定としてはNPO北海道職人大学校による「小樽デザイン協議会」の運営と、全国の中学生・高校生への起業家精神の向上を目指し、平成16年度にキッズベンチャーの全国大会の開催を検討しています。また職人学会

を中心として日本・世界の職人連携を進め、失われつつある伝統工芸や職人の「わざ」の子どもたちへの継承を通じ、後継者の育成に今後とも邁進していきますので、関係者並びに民間ボランティアの皆様の変わらぬご支援の程よろしくお願い申し上げます。

(お問い合わせ先) 小樽職人の会

〒047-0024 北海道小樽市花園2-1-2

0134-27-2611 FAX 0134-33-8333

NPO 北海道職人義塾大学校

〒047-0015 北海道小樽市住吉町14-4

・FAX 0134-23-7206

今年も、文化芸術懇談会を開催します！

文化庁では、文化芸術振興基本法に基づいて、各地域の文化芸術関係者や住民と文化芸術の振興に関し、広く意見の交換等を行うことにより、今後の文化芸術振興施策の充実に資することを旨とし、平成14年度から全国各ブロックで文化芸術懇談会を開催しております。今年も4月13日(火)に大分県で開催される九州ブロックをかわきりに順次各ブロックで開催していこうと考えております。

文化芸術懇談会の会場で、皆様にお会いできるのを楽しみにしております。振るって参加下さいますようお願いいたします。

文化ボランティアに関する情報をお寄せください。

本通信では、様々な文化ボランティアの取組事例等を具体的に紹介していきたいと考えております。本通信への御意見、あなたのまちの文化ボランティアの実践事例、文化ボランティアを行うに当たって有意義な情報等がございましたら、下記までお寄せ下さい。(政治、宗教、営利を主目的とするもの、公序良俗に反するものなどは除きます。また、掲載した皆様の取組は文化庁が「線引き」、「評価」等を行ったものではありませんので、御理解をお願いします。さらに、各取組へのお問い合わせ、交流等は各々の御判断によりお願いします。)

この通信は自由に複写
・配布できます。

文化庁ホームページ
(<http://www.bunka.go.jp>)
にも掲載しています。

発行:文化庁長官官房政策課

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

:03-5253-4111(内線3106)

FAX:03-6734-3811

e-mail:vol@bunka.go.jp